子どもの貧困に立ち向かう 市民活動応援助成

(第1期 - 2022年度)

助成団体紹介



















目次

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金とは	3
子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成について	4
子ども学習支援グループ須賀の寺子屋	5
NPO 法人太陽の村 ·····	6
CoCoLo の会 ·····	7
NPO 法人育ち合い広場・てとてとて	8
無料学習支援 学び場「ここから」	9
つばき学習会	10
TIE トマトマの会	
まなぶば TREK ····································	12

- 寄付文化の拡がりに皆様のご協力を -

公益財団法人かながわ生き活き市民基金は、助成事業、研修・セミナー事業、相談・助言事業、広報発行事業の4つの事業を行っています。当財団を継続的に支援してくださる「賛助会員」を募集しています。(賛助会費は当財団の運営に活用されます)

賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇措置の対象となります。

【年会費】

- ◆個人会員(1口 1,000円)1口以上
- ◆法人·団体会員(1 □ 10,000 円)1 □以上

【特典】

- ◆ 各種報告書の送付(年次報告書、助成団体報告書「福祉たすけあい基金 BOOK」、フォーラム報告書)
- ◆ 当財団が企画開催するイベントへのご招待 (フォーラム、贈呈式等)

【お申込み方法】

- ◆ ゆうちょ銀行から振込
 - 記号番号 00250-0-72370 ザイ) カナガワイキイキシミンキキン
- ◆ ゆうちょ銀行以外から振り込み
 - ゆうちょ銀行 店名:〇二九店 口座番号:0072370

ザイ) カナガワイキイキシミンキキン

※通信欄に「賛助会費」とご記入ください。

公益財団法人かながわ生き活き市民基金とは・・・

◆ 成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合 (1971 年創立) は、90 年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990 年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク(「女性・市民コミュニティバンク」の前身)をつくり、1998 年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は 2003 年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・ 非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を 設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の 10 年間の助成活動の実践を経て、 2013 年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団かながわ生き活き市民基金」を設立 しました。

◆ ミッション

〈投資して利潤を稼ぐことが経済〉という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくることが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平 和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、こどもや障がいを持つ人が生きに くい社会になっています。

かながわ生き活き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き活き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を 通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金 (2015 年度から通常型助成とスタート助成を実施) は、1万人を超える 意思ある生活クラブ組合員の月 100 円寄付を基本財源とした助成プログラムです。「事業指定助 成プログラム」「オーダーメイド助成プログラム」にも取り組みます。

助成事業を中心に、研修セミナー事業、相談・助言事業、広報発行事業を行っています。



子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助

日本における子どもの貧困率は 13.5% (2019 年)。7 人に 1 人、約 280 万人の子どもたちが貧困状態にあるといわれています。その中でもひとり親家庭に至っては 2 人に 1 人の子どもが貧困状態といわれており、OECD 加盟国の中でも最悪の水準です。

子どもの貧困対策としては食支援が代表的ですが、貧困によって起こる「教育格差」も注視すべき課題です。子ども時代の経済格差が教育格差を生み、貧困を背景とした親から子への「負の社会的相続」が子どもの将来自立する力を奪う可能性もあります。

2014年に「子供の貧困対策の推進に関する法律」が成立して以来、政府は「教育の支援」「保護者の就労の支援」「生活の支援」「経済的な支援」の4つの柱の1つとして「教育支援」を掲げていますが、その内容は幼児教育の無償化、義務教育の就学援助、公立高校の無償化・私立高校の授業料減免などが中心であり、実際の子どもの学習支援活動はNPO法人や市民活動団体が担っているのが現状です。

「子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金」では、格差・貧困により子どもたちの学びの場や機会が制限されることのないように、無料塾、フリースクール、居場所などの学習支援活動を行う団体を対象に助成を実施します。

対象となる団体、事業

<対象となる団体>

神奈川県内に事務所を置く非営利団体 (法人格の有無は問いません)。

<対象となる事業・活動>

県内の無料塾、フリースクール、などの学習支援活動を行う団体を支援します

助成額

- ① 助成総額予算 120万円 ② 助成上限額 10万円 (1団体)
- ② 事業対象期間 2022 年 10 月から 2023 年 3 月に実施する事業・活動

🚇 助成の原資について

賛同者の皆様からの寄付(子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金)

選考委員(敬称略)



委員長 手塚 明美 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ理事長

副委員長 三浦 紀子 生活クラブ生活協同組合副理事長

田中 夏子 イタリア協同組合研究者/農業者

川岸 卓哉 弁護士/(特非)原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長

友澤 ゆみこ (特非) ピッピ・親子サポートネット 理事長

小田 鈴子 元逗子市副市長/元逗子市議

高村 文子 横浜YMCA 国際・地域事業担当チーフディレクター

伊藤 保子 NPO 法人さくらんぼ理事 中村 園子 湘南生活クラブ生協理事





子ども学習支援グループ須賀の寺子屋(平塚市) 代表 大野 文 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月

2016年12月

団体の目的・活動内容

様々な事情で家庭学習が十分に行いづらく、学習塾等にも通うことが困難な小中学生を対象に、大学生や元教員・地域の大人が学校の宿題や授業の補習等の自主学習を無償で支援にする活動を行っています。学習の喜びと習慣を身につけ、学力向上を目指すことで、将来、夢や希望を持って進級・進学できる青少年の健全な育成を目的に活動しています。

活動歷

小学生対象に毎月2回、中学生対象に毎月3回、高校生対象に毎月1回、対面での学習支援活動を実施する他、希望する生徒にはタブレット端末を貸出し個別オンライン学習支援や無料の学習サイトを利用した学習支援活動を実施しています。また、参加生徒や地域の困窮家庭の子どもたちへ、連携するフードバンク様の協力で軽食や食糧品の配付も実施しています。

団体情報

平塚市札場町46-4 大野方 080-6626-2686 (大野) sukanoterakoya@gmail.com https://sites.google.com/view/sukanoteragoya

★助成した事業・活動

子どものための無料学習支援と支援員のスキル アップ研修費用

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は、弊会活動へのご理解と応援助成を賜り、 誠にありがとうございます。長引くコロナ禍と物価の 高騰で、疲弊した子育て家庭への見守りと支援を、 手を緩めることなく実施することができます。

新たに始めた高校生寺子屋では、主に相談対応と学習支援を行っています。中学生から不登校だった生徒が高校進学後1日も休まず登校していること。生活困窮家庭の3年生が学校推薦で短大への進学が決まったこと等々、生徒と共に悩み・考え・支え合って来た成果を子どもたちから教えてもらい、喜びを分かち合っています。また、寺子屋卒業生ボランティアが増え、小中学生の学習支援の手伝いをしてくれています。今後も、一人でも多くの支援を求めている子どもたちの力になれますよう、支援員一同努力精進を重ね、より良い支援活動に取り組んでまいります。











特定非営利活動法人 太陽の村 (相模原市) 97, 132円 理事長 吉川 さやか 助成金額

団体紹介

設立年月 2010年8月

団体の目的・活動内容

太陽の村では「すべての子どもに笑顔を!」をモットーに、「教え込まない気付きの教育」やインク ルージョンの感覚を活かした活動を行っています。 また、放課後等デイサービスの枠を利用することもでき、貧困による子どもにも居場所を提供できるように努めています。将来、社会に貢献できる人を、私たちだけでなく学校・家庭・地域の協働のもとで育 てています。

活動歴

2010年グレーゾーンと呼ばれる診断がつかない児

2010年グレーソーンと呼ばれる診断かつかない児童を対象とした自然体験教室をスタート。また、相模原市との協働事業として、同じくグレーゾーンの童を受け入れる放課後クラブを始める。
発達特性等を起因として不登校になった子どもの居場所作りも必要とされていると分析し、フリースクールを開校。現在は通信制高校と連携して高校となるまた。 生クラスを設置。一日当たりの平均利用者は、10名 前後の小学1年生から高校3年生までを受け入れて いる。

主な活動内容:(室内)調理実習、基礎学力定着支 援、書道、季節のイベント、(屋外)野外調理や公園 での運動、サッカー教室、遠足など。また、法人内の 他事業所と合同で自然体験教室を毎月実施。

団体情報

住所 〒252-0239

相模原市中央区中央2丁目7番9中央歯科3階

TEL: 042-707-0160

Mail: office@taiyounomura.com URL: https://taiyounomura.com/

★助成した事業・活動

野外体験費用、学習道具(教材等)の購入

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

「子どもの貧困」と言っても、最前線の現場にいる 私たちでも、子ども達と会話をしてみないと見た目で はその困り感に気づくのが難しいです。スマホ持っ ていて、お腹をすかせている様子がそこまでない。 ただ、費用が発生する時に「払えないからイベントに 参加できない」というお子さんが居るのも事実です。 積み立てが必要な修学旅行(学校の代わりとなるイ ベントとして太陽の学園で実施)であれば、費用が かさむので参加を渋るご家庭があるのは想像がつく のですが、「お母さんがダメって言った」と数百円の 実費を払ってもらえないから教室でのイベントに行 けないと泣きながら電話をして来た男子児童は、私 を含め職員に衝撃を与えました。

職員で出してあげようか、と誰ともなく声があがった 事がありますが、他の児童との公平さを考えて実施 に至らなかった事もあります。今回の助成で、児童 の「行きたい」「参加したい」を叶えられるので本当に ありがたいです。







CoCoLoの会 (逗子市) 代表 吉原 千草 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月

2010年1月

団体の目的

不登校支援を柱とし、子どもも大人も「ありのまま」 で安心して過ごせる地域をつくる。

活動内容

不登校支援・逗子の移動式無料フード(フードドラ イブ・フードパントリー)

活動歴

- (1)学習支援活動(大学受験も含む)
- (2)野外活動(食育体験・工場見学・子ども屋台・ ファッションショー等)
- (3)不登校支援
- (4)逗子の移動式無料フード (フードドライブ・フードパントリー)
- ※現在、(3)と(4)を中心に活動中

団体情報

住所:神奈川県逗子市沼間1-4-43

キリガヤラボズ1階

電話番号:090-3816-6780

メールアドレス: cocolonokai@gmail.com

URL: https://cocolonokai.com/

★助成した事業・活動

物品購入費(PC.プリンタ一等)

助威をうけて・・・の思い・メッセージ

CoCoLoの会では、子ども達が自分のタイミン グで自分の道を進むことができるように「子ど も」を変えるのではなく「環境」を変えていくよう な工夫を日々考えております。この度の助成を 受けることで子どもたちの環境がさらにレベル アップすることは間違いないので心から感謝し ております。子どもたちの「やりたい」を大切に するのは、子ども達個々の生涯身につくスキル は、好きなことに没頭する中から芽生えて育つ とCoCoLoの会は考えるからです。さらに、「自 分軸」の形成のためでもあります。社会に出て 生きづらさを感じている大人たちと共に過ごす 中で感じたのは承認欲求の強さであり「他人 軸」で生きているということでした。子どもの頃 に自分が何をしたいのかを見つめ、行動に移し 「自分軸」を形成できるような活動をCoCoLoの 会では地域まるごと視野にいれながら挑戦し続 けています。







NPO 法人育ち合い広場・てとてとて(藤沢市) 代表理事 小川 智子 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月

2017年 7 月(任意団体) 2022年 5 月(NPO法人)

団体の目的・活動内容

大人も子どもも育ち合おう。子どもの成長や暮らし と向き合い、地域の中で繋がり学び合える場づくり を目指し、以下の活動を行っている。

- (1)子どもとの暮らしと向き合う座談会。
- (2)互いの特技や趣味を生かし、学び育ち合える場として「手等子屋(てらこや)」の開催。
- (3)地域の自然の中で五感を使い、四季折々を感じながらの野外探検活動。
- (4)「困った時はお互い様」分かち合い、助け合いのフードバンク分配活動。環境問題にも取り組む。
- (5)自ら考え、共に育ち学び合うオルタナティブな学 び場 2022 年 4 月開校)

活動歴

2017年、任意団体「育ち合い広場てとてとて」設立。 大人の座談会や子どもの体験活動、地域の居場所 活動を行う中で、子ども達の生きづらさと直面。既存 の学校がしつくりこないと悩む子ども達を目前にし、 私たちに何か出来る事はないかと思案。2022 年 4 月より「学校に代わる学び場」を設立。この場を必要 とする子ども達と平日昼間の週 4 日を共に過ごし つつ、今までの活動も継続して行っている。2022 年 5 月 NPO 法人育ち合い広場・てとてとて設立。

団体情報

藤沢市 弥勒寺 1-22-21 tetotetote2017@gmail.com https://tetotetote2017.wixsite.com/tetotetote

★助成した事業・活動 ボランティアスタッフ謝礼の一部

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今、既存の学校がしっくりこないと感じる子ども達 が急増しています。

長引くコロナ禍で、人と人との距離を取り、マスクで表情は見えにくく、消毒や黙食など、ありのままで生きることが難しい世の中。

当然のことながら、子どもたちに心身への影響が見 え始めました。

長期的マスクの着用により体調を崩した子、それでも周りの目を気にして外せない子、マスクに限らず、現状に窮屈さを感じ学校へ足が向かない子・・・学校にも家にも居られずに飛び出してくる子ども達の声を聴く中で、私たちに何か出来る事はないだろうかと考え、とにかく1日も早く、心から安心して通える場を開く事が必要だと、動き出しました。

継続していくには、子ども達の見守りスタッフの存在が必須です。最も必要で、最も経費として掛かる部分を皆々様の助成により支えていただき、勇気と活力を頂きました。心より感謝申し上げます。













無料学習支援 学び場「ここから」(相模原市) 代表 小﨑 髙義 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月 2022年4月

団体の目的・活動内容

子どもたちの未来のために、学びを通じて、心満たされるときを届け、心の豊かさを育む機会を創出します。子どもたちに寄り添いつつ学習を支援し、「わかった!」「できた!」の体験を通して、一歩ずつ自信を身につけていきます。子どもの居場所、情操教育、体験的学びにつながるイベントをしています。

活動歴

学習支援(土曜日月2~3回) 夏のオープンクラス、自習室開催

団体情報

〒252-0344 相模原市南区古淵5-10-11 クロスロードバプテスト教会内 Mail:manabi.coco@gmail.com

URL: https://manabicoco.hp.peraichi.com/

★助成した事業・活動

物品購入費(教材、文具等)、会場費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

学習支援を始めて半年が経ち、参加の小中学生が1人から4人に、学習サポーターさんが1人から9人となり、ようやく起動に乗り始めた折、子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成をいただくことができ、心より感謝申し上げます。

今後、継続的に教育格差を見据えた支援を行うにあたり、テキストやドリルの購入、インタネット上のドリルをプリントするためのプリンターを備えたいと思っております。また、自習室やお楽しみ会、書初め会などのイベントを実施することによって、地域で学びや居場所を必要としているご家庭やお子さんたちへの周知を図っていきます。この度は本当にありがとうございました。







つばき学習会 (川崎市) 代表 吉原 崇徳 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月

2017年4月

団体の目的・活動内容

団体の目的:学校でも家でもない第三の学習の場を小学生に提供し、最低限の学習をサポートすること。学習支援を通じて、保護者や教員の負担を軽減すること。

活動内容:毎週土曜日に、川崎市内で小学生 を対象に学習支援を行う。保護者の悩みがあ る場合は相談を受け付ける。

活動歴

2017年~ 川崎市幸区社会福祉協議会にて学習支援をスタート

2017年~ 川崎市南部地域療育センターにて学習 支援をスタート

2019年~ 多世代交流スペースメロディーココにて、 学習支援スタート

2022年~ る一むら麻生にて学習支援スタートの予定

団体情報

メールアドレス : tubaki-gakusyusitu@outlook.jp URL: tsubaki-gakushukai.com

★助成した事業・活動

ボランティア交通費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

このたびは、当会への助成をいただき誠にありが とうございます。いただいた助成のもと、10月からも、 小学生への学習室を継続して開催させていただく所 存です。

当会は、小学生の学習をサポートをすることと、それに付随して保護者の方々の負担の軽減を目的に学習支援を行なっております。最近では、保護者の方から、「子供は家では学習をしないのに、つばき学習室では一生懸命勉強している。」といった声や、「学習に対しての意欲が以前全くなかったが、つばき学習室でスモールステップで取り組むことで、少しずつ自信をつけてきた」といった声をいただいており、学習室開催の意義を実感しています。また、登校にしぶり傾向があるお子さんも当会の学習室には前向きに来ているといった事例もあり、子どもたちにとって居心地のよい学習の場を提供できているのではないかと感じております。

数年間にわたり子どもたちを見続け、関わり方を 改善してきた結果、当会としての子どもたちへの関 わり方や学習サポートの仕方も確立されつつありま す。今後もより子どもたちが学習しやすい場を提供 できるように精進していきたいと思います。







TIEトマトマの会 (横浜市) 代表 山縣 紀子 助成金額 90,000円

団体紹介

設立年月

2009年4月

団体の目的・活動内容

外国にルーツのある中高生を中心とした 日本語・教科のサポートと交流活動

活動歴

<団体前身>

1997年設立「ユッカOB会」の活動の一つである「トマトマ教室」から継続

<例年活動>

- ・教室学習 毎週日曜午後日本語・教科補習(マンツーマン対応)・高校受験対応
- ・教室交流会 スポーツ・見学・遠足・料理など 年3~4回
- · 教室OB連携交流

年末クリスマス交流会・キャンプ

・他 生徒間シャベリ場、ボラ情報交換・学習会、 個別相談など

団体情報

教室 横浜駅西口 「かながわ県民センター」 内

電話 090-2322-0159 メール noriko-noko@ozzio.jp

★助成した事業・活動

会場費、交通費、野外教室交通費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

居場所としても一定の場が大事でしたが、コロナ禍以降毎回教室の場が変わり、お弁当から一切の飲食もできないなど、県民センターのシステムも大分変ったままで定着していくようです。 ここを卒業していった生徒がたまに訪ねてくることも難かしくなりました。

その中でも、今はウクライナやウズベキシタンからなどの中近東・東南アジア系の生徒が中心に通ってきています。教科や日本語の勉強だけでなく、翻訳機を通して言いたいことを発散していく生徒もいます。

頂いた助成金と相変わらずの心意気でのボランティア達とで運営できるこの教室が、彼らにとって次のステップに向かうための意味のある力になれる場になるよう、出来るだけ続けていきたいと願っています。







まなぶばTREK (藤沢市) 代表 柴田美里 助成金額 100,000円

団体紹介

設立年月 2021年4月

団体の目的

様々な理由で学校に居場所を見出せなかったり、通うのが困 難なこども達に、学校以外で安心して過ごせる居場所・まなび 場を提供すること。

活動内容

- ●生きる力を養う学び
- 種まきから収穫、種取りまでの畑しごと
- 旬の野菜を使った食事づくり
- ・味噌仕込みや漬物など、保存食づくり
- ・陶芸・糸かけ曼荼羅・編み物など造形活動
- 自然の中で身体を動かすこと
- ●世界を知るための読み書き算数などの座学
- ●人との触れ合いを大切にした活動 ありのままの自分を表現すること。

自己を認める事で他者も認めることに繋がり、人との関わりを 学ぶこと。

活動歴 ●基本週4日活動 (畑しごと、調理、保存食作り、手しごと、工作、川遊び、登山、 座学など) 素筋ごとの遠足&夏休みキャンプ

産子なこ, 季節ごとの遠足&夏休みキャンプ ●外部向けワークショップ(草木染め等) ●外部講師による座学・ワークショップ(陶芸教室、寺子屋など)

団体情報

メールアドレス

manabubatrek@gmail.com 住所•電話番号(非公開)

→フェイスブックページ まなぶばTREK〜共に自然を感じながら生き・食し・遊ぶ〜 https://www.facebook.com/manabubatrek/

◆インスタグラム (manabuba_trek)

 $https://instagram.com/manabuba_trek?igshid=YmMyMTA2M2Y$

※フェイスブックかインスタグラムよりメッセージの受付をしてお ります。

★助成した事業・活動

スタッフ交通費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

学校以外で、子どもたちが安心して自分らしく居 られる場所、一人一人の個性を大切にした多様な 学びの提案をしています。

大人が作ったカリキュラムを子どもたちに強要する のではなく、子どもたちとの関係を育み、それぞれ の特性を理解しあいながら、子ども達と共に話し合 うことで自発的で主体的な学びを試みています。 生活を営む知恵(食事作り・農作業・手仕事)、世界 を知るための座学(読み書き、算数)、実験、身体を 知ること、造形、身体を動かすこと、自然との関わり など。子どもたちの様子と意欲を見ながら「今より少 し頑張ってみる」というスタイルで、自分の足で歩い ていける自信を育てます。

大人も「教えよう」と気負わず、子どもたちと一緒に 自然体で人と人との温かい繋がりを丁寧に育み学 びあっています。

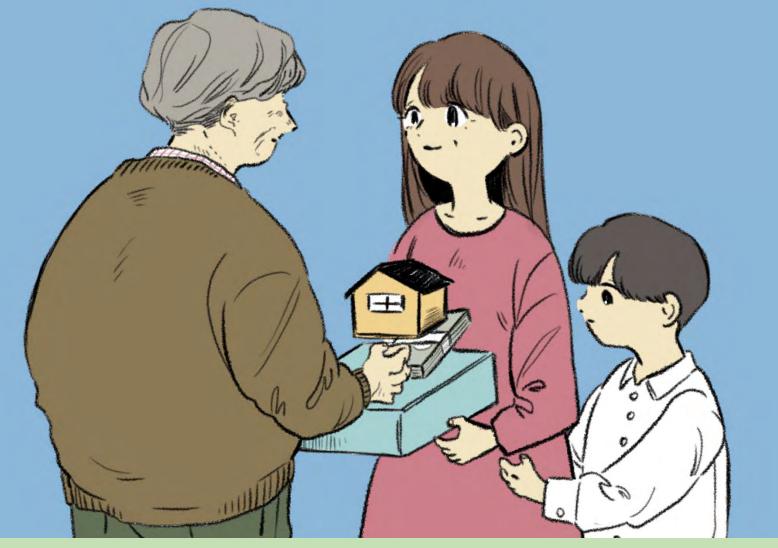
これからイベントなど開催し、子どもたちの育ちに ついてのメッセージも社会に発信していけたらと思っ ています。ご支援ありがとうございます。助成金を活 用させていただきます。





子どもの貧困に立ち向かう

市民活動応援基金



●基金の目的

かつては総中流社会と云われた日本社会ですが、この年余りの間に、格差・貧困が加速度的に広がっています。子どもを取り巻く状況が悪化し、「貧困の連鎖」が起こっています。

この基金では、市民が連帯し問題解決をめざす活動~子ども食堂(コミュニティ食堂)・学習支援活動・フードバンク活動など~を応援します。

●基金のしくみ

- ・101万円から寄付を募集します。
- ・寄付者は特別賛助会員として、この基金の設置者として名を記します(任意)
- ・基金への寄付が100万円を超えた段階で、公募・選考・助成を行います。
- ●寄付の方法 · 寄付申込書(裏面)を提出のうえ、以下の口座にご入金ください。

名義:公益財団法人かながわ生き活き市民基金

郵便振替 記号番号 00220-6-102971

銀行振込 ゆうちょ銀行 ○二九店(ゼロニキュウ店) 当座 0102971



住所:〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 階

TEL: 045-620-9044 FAX: 045-620-9045

子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金 寄付申込書

※この用紙を	ファクス	(045	-620-	904	45) または郵	便で	お送りください。)	
申込年月日*	20 年	月	日						
	(フリガナ)								
氏名/団体名*							(ご担当者	1 :)
住所*	₹								
TEL*	F.A								
Eメール					·				
ホームペー	ジや広報物へのお名前の掲載*				□可		□匿名希望		
メールマガジンや	メールマガジンや広報物の送付、イベント案内など*						□メールマガジンのみ必要 □不要		
メッセージを自由にお書き									
*印は必ずご記入く	ださい。								
申込口数 (寄付額)	申込口数(円						領収書発行 ※当財団への寄付 は、 寄付控除の対象となりま す。		
	※1ロ1万円からお願いいたします。						口必要		
									不要
お支払い 方法	記号番号	○二九 ※			ゆうちょ銀行 ○二九店 当座 0102971 活き市民基金	□ 現金書留		送金予定日 (月日)	
※いただいた個人情報	。 は、領収書 <i>0</i>	の発行、財団	からの各種	ご案内(の送付以外の目的で	はーも			
送付先 公益財団法人かながわ生き活き市民基金 〈事務局〉 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6F TEL: 045-620-9044 FAX: 045-620-9045 E-mail: info@lively-citizens-fund.org ☆Facebook やホームページで情報をお伝えしています かながわ生き活き市民基金 検索									
							~		

入金確認日

入力日

事務局記入欄

(2018.07)

担当者

遺贈寄付、生前寄付について

●子どもの貧困にたちむかう市民活動応援基金

<基金の目的>

かつては総中流社会と云われた日本社会ですが、この 20 年余りの間に、格差・貧困が加速度的に広がっています。 子どもを取り巻く状況が悪化し、「貧困の連鎖」が起こっています。

この基金では、市民が連帯し問題解決をめざす活動~子ども食堂(コミュニティ食堂)・学習支援活動・フードバンク活動など~を応援します。

<基金のしくみ>

- ・1 口 1 万円から寄付を募集します。
- ・寄付者は特別賛助会員として、この基金の設置者として名を記します(任意)
- ・基金への寄付が100万円を超えた段階で、公募・選考・助成を行います。



●「冠基金」・・・寄付者個人の名前や想いなど、ご希望のお名前を冠して基金をつくります。

遺贈・生前贈与等による、まとまった寄付をもとに、寄付者の思いに沿ったテーマ・目的の助成が出来る 基金をつくります。

従来のオーダーメイド基金と併せて、寄付者の意思を顕す基金とします。

金額については、募集の段階で限定せず、寄付者の思いと実現可能性(内容と寄附額等)から寄付者と調整になります。

・基金の金額は100万円以上とします。



発行:公益財団法人 かながわ生き活き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045 Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL : http://www.lively-fund.sakura.ne.jp

Facebook: http://www.facebook.com/livelycitizensfund

発行日: 2023 年 1 月 1 日 発行部数: 700 部